

ロボット支援肝切除術（暫定）プロクター基準

（日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会）

プロクターはそれぞれの手術支援ロボットごとに設定する。令和 4 年 12 月 1 日現在、ダビンチ（インテュイティブ）、Hinotori（メディカロイド）の 2 機種を対象とする。

(A) プロクター基準

1. 日本消化器外科学会 消化器外科専門医である。
2. 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・指導医または日本内視鏡外科学会技術認定取得者である。
3. 以下の術者経験を有する。

a) 1 機種目のプロクター条件

[ロボット支援肝亜区域切除、1 区域切除（外側区域切除を除く）、2 区域切除および 3 区域切除以上の場合]（外側区域を除く亜区域以上と略す）

開腹、腹腔鏡下、ロボット支援にかかわらず、術者として外側区域を除く亜区域以上の肝切除 50 例以上の経験を有する。そのうち、腹腔鏡下とロボット支援の合計が 25 例以上、ロボット支援が 5 例以上含まれること。

[ロボット支援肝部分切除及び外側切除の場合]

下記の①②③のいずれかを本術式のプロクター、④を暫定プロクターとする。

① 開腹、腹腔鏡下、ロボット支援にかかわらず術者として肝切除 50 例以上の経験を有する。そのうち、腹腔鏡下とロボット支援の合計が 30 例以上、ロボット支援が 10 例以上含まれること。

② ロボット支援肝亜区域切除、1 区域切除（外側区域切除を除く）、2 区域切除および 3 区域切除以上のプロクターは、ロボット支援肝部分切除及び外側区域切除術のプロクターを兼ねることができる。

③ JSES 認定 Hinotori 胃切除（暫定）プロクターおよびダビンチによる肝部分切除及び外側切除プロクター資格の両方を有し、Hinotori によるロボット支援肝部分切除及び外側切除を 1 例以上術者としての経験を有する。

Hinotori 胃切除（暫定）プロクター + ダビンチ肝部分/外側区域切除プロクター

+ Hinotori 肝部分/外側区域切除 1 例以上術者経験 ⇒ Hinotori 肝部分/外側区域切除プロクター

④ 一定の条件を満たした施設が本術式を導入する場合に限り、暫定プロクターが指導を行うことができる。⇒詳細は下記の (B) 参照のこと。

b)2 機種目以降のプロクター取得

- ・ 2 機種目以降の当該手術支援ロボットについて、企業が定めるトレーニングを受講し、certified surgeon となる。
- ・ 2 機種目以降は当該機種による肝切除（部分切除以上術式を問わず）を術者として 4 例経験すれば、既に取得している 1 機種目のプロクター資格を 2 機種目に適用することができる。

(B)「暫定プロクター」基準

ロボット支援肝部分切除または外側区域切除に限り、プロクター基準を満たさなくても、適切な指導者がいれば安全な手術の導入が可能と考えられるため、下記のような暫定プロクター基準を定める。

日本肝胆膵外科学会が認定するロボット支援膵切除術のプロクター（膵体尾部切除または膵頭十二指腸切除）は、開腹または腹腔鏡下肝切除を術者として 50 例以上（うち腹腔鏡下とロボット支援の合計が 20 例以上）経験し、導入施設が下記の条件^{注2)}を満たせば、暫定プロクターとして同じ機種によるロボット支援肝部分切除または外側区域切除術導入時の指導を行うことができる。暫定プロクターは学会への届け出は不要である。

ロボット A 膵切除プロクター + 肝切除術者 50 例以上（うち腹腔鏡下とロボット支援の合計が 20 例以上）
⇒ ロボット A 肝切除暫定プロクター（部分/外側区域切除）^{注2)}

注2) [暫定プロクターが指導できる施設の条件]

施設が別に定める『ロボット支援肝切除術導入に関する指針』における『術者条件』『施設条件』を満たしており、腹腔鏡下肝部分切除または肝外側区域切除 10 例以上の経験を有する手術チームがロボット支援肝部分切除または肝外側区域切除を開始する場合。